



安倍内閣による集団的自衛権行使容認の閣議決定を許さない

この8月6日は、広島被爆69年の平和祈念式典。安倍首相も参列しました。その式典後に、「被爆者代表から要望を聞く会」があり、吉岡・被爆者団体代表(88歳)が『「広島は過ちを繰り返さない」と記念碑に刻し、その後日本は69年間一人の戦死者も出していないのに、安倍内閣の今回の閣議決定は日本を戦争のできる国にするものである。したがって我々は決定の撤回を要求します。』と冒頭にはっきりと述べられました。それに対して、首相は「国民の命を守るためだ」とトンチンカンなことを言っていました。私はそれをテレビで見て、被爆者代表の勇氣に感銘を受けました。

その前日の5日には、今年度の防衛白書が発表され、「集団的自衛権の行使を認めた閣議決定は日本の平和と安全を一層確かなものにしていくうえで歴史的な重要性を持つ」と明記し、歴代の自民党政権下でも決して認めなかった、従来の憲法解釈をあっさりに変更しており安倍内閣の反動性をむき出しにして、着々とその体制を整える道を歩んでいます。

そのような動きに対し、国民はいたずらに傍観しているわけではありません。心ある人はあらゆるところで声を挙げ、世論調査でも朝日新聞によれば内閣支持率は5月の49%から7月は43%となり、「集団的自衛権の議論が不十分」とする割合が76%もあって安倍内閣を脅かしています。

代田・九条の会も創立以来6年の間、平和憲法を守るため、各種の活動を続けてきました。結成後10年を迎えた九条の会の7月5日のアピール「今こそ主権者の声を全国の草の根から上げ『No!』の意思表示をしよう」を受けて、事務局から提案されている「今年10月“集団的自衛権反対!! 憲法9条を守る”九条の会全国統一行動を成功させ、憲法破壊勢力を包囲しよう」に呼応しようと思います。そして11月24日には日比谷公会堂とその周辺での大規模な集会とパレードも計画されています。具体的な行動はこれから決めていこうと思いますが、関連法規の制定を断念させることで憲法9条を守り抜く決意です。(代田5丁目・野間口 至)

野人の叫び

7月20日に、群読構成劇「われらが日本国憲法」を見て、私は一つの疑問を持ちました。浅学ゆえの疑問かもしれないので、ここに書くのは気後れもするのですが、どなたかに教えて頂ければと思います。

劇は幣原喜重郎が憲法9条の条項の起案者として展開しました。私は全く知らなかったの、さっそく調べると、確かに幣原氏は自伝(日本図書センター刊、人間の記録64『幣原喜重郎外交50年』)で次のように述べています。

「彼ら(野人、つまり庶民)が憤慨するのも無理はない。戦争はしても、それは国民全体の同意も納得も得ていない。国民は何も知らずに踊らされ、自分が戦争をしているのではなく、軍人だけが戦争をしている。」と述べたうえで「図らずも内閣組織を命ぜられ…何とかしてあの野に叫ぶ国民の意思を実現すべく努めなくちゃいかんと固く決心した。それで憲法の中に、未来永ごうそのような戦争をしないようにし、政治のやり方を変えることにした。つまり戦争を放棄し、軍備を全廃し、どもまでも民主主義に徹しなければならん」とスッパリと述べている。

この事実は、押し付け憲法といって騒いでいる改憲論者に突きつける見事なレッドカードではないか? なぜ、今まであまり取り上げられてこなかったのか? 映画『日本の青空』でも、この事実はたしか触れられていない? と疑問が湧いてきました。

しかし、いずれにしても、野人の叫びこそ、戦争オタクの安倍首相に聞かせたいと思いました。この日、劇が上演された日本共産党の本部大講堂は、文字通り満席で埋まり、野人の叫びが満ち溢れてくるような錯覚にとらわれました。大講堂と言っても、音響も良く、ホールと呼んでいい素晴らしいところでした。



7月20日 群読「日本国憲法」

(代田2丁目・寺島 やえ)

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

安倍内閣の改憲（壊憲）暴走の阻止をめざす 「九条の会」の草の根からのとくくみを！

6月に「九条の会」が発足10周年を迎えました。しかし、このとき、安倍政権は7月1日、集団的自衛権行使容認を閣議決定をおこない、まさに「解釈改憲」による憲法9条を破壊する暴挙です。これにたいして、前号で紹介したように、九条の会は「いまこそ主権者の声を全国の草の根から」とよびかけ、10月に統一行動を、11月24日に日比谷公会堂で大集会をとりくむ取り組む提案をしました。

これに応じて、「首都東京から九条の会の新たな前進のための懇談会」が九条の会東京連絡会のよびかけで、7月28日夜に開かれました。最初に九条の会事務局の高田健さんから「集団的自衛権行使容認を許さないたたかい - 情勢と展望について」のお話を聞き、討論・交流のあと、政治の中心地・首都東京の各地・分野に九条の会をひろげること、かつてない幅と厚みをつくる創意ある積極的活動をよびかけた「“戦争する国”ゴメンです！ 若者を戦場へ送り出させるな！ いま、首都東京の“九条の会”が真価発揮するとき」のアピールを全員で確認しました。

また、九条の会事務局の案内で、11・24大集会の成功をめざす運営委員会が7月30日夜、首都圏から各地九条の会から参加して開かれました。安倍内閣の集団的自衛権行使容認の撤回を求めて各地で宣伝・署名活動が取り生まれ、国民の関心が高まってきていること、とくに若者たちや自衛隊関係者からの声が寄せられていることなどが紹介され、10月の統一行動と11月24日の日比谷集会と銀座パレードを大きく成功させることを申し合わせました。
(代田5丁目・高岡 岑郷)

集会等の紹介

8月16日(土) 正午～ 終戦記念日によせて

会場 新代田区民センター・2階・第1会議室

連絡先 代田・九条の会

10月4日(土) 13時～17時 九条科学者の会 秋の講演会

～ 安倍政権と集団的自衛権・改憲の行方 ～ 参加費： 500円

(i) 「集団的自衛権と自衛隊」 半田 滋 氏 (東京新聞論説兼編集委員)

(ii) 「安倍政権はなぜ集団的自衛権行使・改憲に執念を燃やすのか？

われわれはそれをいかに阻むか？」 渡辺 治 氏 (一橋大学名誉教授)

会場 日本大学歯学部2号館第一講堂 (JR御茶ノ水駅下車 7分)

連絡先 「九条科学者の会」： 03-3811-8320

11月8日(土) 午後1時30分～4時 結成6周年記念の集い (計画中)

講演：「憲法9条はいまどうなっているのか」(仮題)

学習院大学大学院法務研究科教授 青井未帆さん

合唱： 南部合唱団

会場 日本基督教団・代田教会 (小田急線「世田谷代田駅」南口より徒歩5分)

連絡先 代田・九条の会

11月24日(月・振替休日) 大規模な集会とパレードを企画

会場 日比谷公会堂とその周辺

日本国憲法 (抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。